

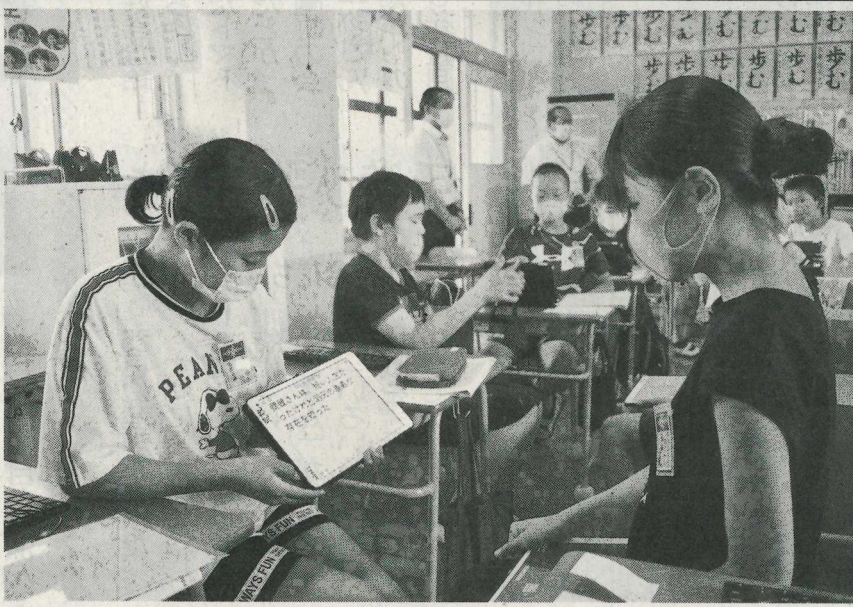
タブレットで学び広がる

GIGAスクール 新しい形の授業に活用

荒尾の小中学校

GIGAスクール構想として、荒尾市では4月に小中学校の全ての児童生徒へ1人1台のタブレット端末を整備した。自宅に持ち帰ることもできるという、学校ごとに新しい形の授業が生まれ、子どもたちの学びの幅が広がっている。

市が導入したのは携帯電話 回線に接続できるタブレットでも使われているLTE 端末。LTE回線接続で



タブレットを使い授業を行う児童（平井小）

きることで、学校内はもちろん、屋外や無線LAN環境がない場所でもインターネットに接続でき、家庭に持ち帰っても支障なく使用できる。一方、家庭での学習以外の使用を防ぐため、小学生は午後9時から午前6時まで、中学生は午後11時から午前6時までインターネットに接続できないようロックがかかる。

また、4人のICT支援員を配置。市内の学校を巡回し、子どもたちだけでなく、教師へのサポートも行っている。学校によってさまざまな活用方法が生まれる中、校長会で各校がどう使っているか、より良い活用方法の共有も図られている

という。

今月9日には平井小学校が授業を公開した。同校では全ての科目でタブレットを活用しているという、児童は絵の下書きを描いたり、互いにタブレットの画面を見せ、英語を話したりしていた。同校では校外学習の際、欠席した児童がタブレットを通して見学先の写真を見るなど学習に参加したこともあったという。吉永鈴子校長は「授業の進め方が大きく変わった。使い方にも慣れてきたので、今後どう有効に使っていくか、質的な面を伸ばしていきたい」と話した。

授業の様子は浅田敏彦市長も見学し、「子どもたちが生き生きと集中していて、授業は激変している。タブレットがあれば世界とつながれるので、子どもたちが可能性を広げ、いろんなこ

とを知って明るい未来をつくってほしい」と期待した。市では今後、端末を活用等専門学校などの連携強化を進めると共に市全体で開館する予定の新市立図書館、大牟田市の有明工業高市民サービス向上につなげるとしている。
(矢野 大輔)